

定期作況報告

(第6号 平成20年10月20日現在)

北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：最高気温は平年より 1.9 低く、最低気温も平年より 1.3 低かった。降水量は平年より 1.4mm 少なく、平年対比 97%であった。降水日数は平年より 1 日多かった。日照時間は平年より 9.7 時間少なく、平年対比 81 %であった。夏日(最高気温 25 以上)および真夏日(最高気温 30 以上)はなかった。

10月上旬：最高気温は平年より 1.2 低く、最低気温も平年より 0.3 低かった。降水量は平年より 5.2mm 多く、平年対比 114%であった。降水日数は平年より 1 日多かった。日照時間は平年より 3.4 時間少なく、平年対比 92 %であった。夏日および真夏日はなかった。

10月中旬：最高気温は平年より 2.7 高く、最低気温も平年より 1.8 高かった。降水量は平年より 17.2mm 少なく、平年対比 49%であった。降水日数は平年より 3 日少なかった。日照時間は平年より 6.9 時間多く、平年対比 116 %であった。夏日および真夏日はなかった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	17.3	19.2	1.9	15.7	16.9	1.2	17.4	14.7	2.7	16.8	16.9	0.1
最低気温()	6.7	8.0	1.3	6.2	6.5	0.3	5.7	3.9	1.8	6.2	6.1	0.1
平均気温()	11.8	13.2	1.4	10.7	11.2	0.5	11.0	9.0	2.0	11.2	11.1	0.1
降水量(mm)	40.0	41.4	1.4	43.5	38.3	5.2	16.5	33.7	17.2	100.0	113.4	13.4
降水日数(日)	6	5	1	6	5	1	3	6	3	15	16	1
日照時間(hr)	40.4	50.1	9.7	39.5	42.9	3.4	50.5	43.6	6.9	130.4	136.6	6.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

1) 水 稲 : 良

事 由 : 8月下旬の低温および稔実籾数の増加により登熟は遅れ、成熟期は「きらら397」が平年より10日程度、「ほしのゆめ」「ななつぼし」は8日遅れた。登熟日数は「きらら397」が平年より7日、「ほしのゆめ」「ななつぼし」は4日多かった。

[籾数]: m²当たり穂数は中苗が平年より多く、成苗は平年並からやや多かった。一穂籾数は「ななつぼし」が平年の92%で少なかったものの、それ以外は106~113%で多かった。その結果、m²当たり籾数(m²当たり穂数×一穂籾数)も「ななつぼし」が平年の97%に留まったものの、それ以外は107~124%で多かった。

[稔実歩合・稔実籾数]: 稔実歩合は「きらら397」が平年に比べ3ポイント程度低く、「ほしのゆめ」はほぼ平年並、「ななつぼし」は平年に比べ4ポイント高かった。m²当たり稔実籾数(m²当たり籾数×稔実歩合)はいずれの品種も平年を上回り、平年対比で102~120%であった。

[登熟歩合・m²当たり登熟籾数]: 登熟歩合は「きらら397」が平年よりやや低かったが、「ほしのゆめ」は平年並、「ななつぼし」は平年よりやや高かった。m²当たり登熟籾数(m²当たり籾数×登熟歩合)はいずれの品種も平年を上回り、平年対比で104~115%であった。

[精玄米千粒重]: 「きらら397」は平年並で、「ほしのゆめ」および「ななつぼし」はやや重かった。

[精玄米重]: 粒厚1.90mm以上の収量はいずれの品種も10a当たり650kgを超え、平年対比で106~118%であった。

以上、収量が平年を大幅に上回り、品種・苗をこみにした収量は平年対比114%であった。このため、本年の作況は「良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期(月・日)			登熟日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.27	9.16	11	58	51	7
ほしのゆめ 成苗	9.14	9.6	8	49	45	4
きらら397 成苗	9.22	9.12	10	56	49	7
ななつぼし 成苗	9.18	9.10	8	52	48	4

注1) 平年値は平成13~19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「遅」(成熟期)または「多」(登熟日数)を示す。

表3 収量構成要素・決定要素および収量

品 種 苗	m ² 当り穂数(本)				一穂粒数(粒)				m ² 当たり粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	790	723	67	109	49.7	43.9	5.8	113	39.3	31.7	7.6	124
ほしのゆめ 成苗	758	755	3	100	45.1	42.4	2.7	106	34.2	32.0	2.2	107
きらら397 成苗	739	714	25	104	45.8	42.4	3.4	108	33.8	30.3	3.5	112
ななつぼし 成苗	712	678	34	105	46.7	50.6	3.9	92	33.3	34.3	1.0	97

品 種 苗	稔実歩合(%)				m ² 当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	89.5	92.3	2.8	97	35.2	29.3	5.9	120	76.3	82.3	6.0	93
ほしのゆめ 成苗	93.8	92.3	1.5	102	32.1	29.5	2.6	109	86.8	85.6	1.2	101
きらら397 成苗	89.2	91.8	2.6	97	30.1	27.8	2.3	108	81.4	85.2	3.8	96
ななつぼし 成苗	95.7	91.4	4.3	105	31.9	31.4	0.5	102	92.6	86.4	6.2	107

品 種 苗	m ² 当登熟粒数(×1000粒)				精玄米千粒重(g)				精玄米重(kg/10a)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	30.0	26.1	3.9	115	22.8	22.6	0.2	101	706	601	105	117
ほしのゆめ 成苗	29.7	27.4	2.3	108	22.3	21.9	0.4	102	651	554	97	118
きらら397 成苗	27.5	25.8	1.7	107	22.7	22.8	0.1	100	673	591	82	114
ななつぼし 成苗	30.8	29.6	1.2	104	22.5	21.9	0.6	103	659	620	39	106

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

3) 稔実歩合：触手で求めた。

4) 登熟歩合：比重1.06の塩水選で求めた。

5) 精玄米千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋まき小麦 : やや不良

事由：播種期は9月10日、出芽期が9月17日であり、いずれも平年より2日遅かった。平年に比べて、9月中旬が極めて少雨に経過し、9月下旬～10月上旬は低温・寡照に経過したため、生育がやや停滞している。現在のところ、平年と比較して草丈は低く、茎数が少なく、葉数はやや少ない。

したがって、目下の作況は やや不良 である。

表4 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	播種期(月日)			出芽期(月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホクシン	9.10	9.8	2	9.17	9.15	2

品 種 名	草 丈 (cm)			茎 数 (本/m ²)			葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホクシン	20.7	29.4	8.7	1069	1585	516	5.5	5.9	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値(収穫年度)。

2) は平年より減を示す。

3)大豆 : 平年並

事由:成熟期は「トヨムスメ」で6日、「トヨコマチ」と「ユキホマレ」で3日平年より遅れた。主茎長は平年を上回り、主茎節数は平年並、分枝数は平年並かやや上回った。着莢数は、「トヨムスメ」と「ユキホマレ」が平年並、「トヨコマチ」は平年を上回った。子実重は「トヨムスメ」が平年比110%、「トヨコマチ」が同103%、「ユキホマレ」が同101%であった。百粒重は平年並かやや下回ったが、屑粒率は平年よりやや低かった。

したがって、目下の作況は 平年並 である。

表5 成熟期の大豆の生育および収量

品 種 名	成 熟 期(月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数(節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	10.3	9.27	6	69	59	10	10.3	10.0	0.3
トヨコマチ	9.23	9.20	3	73	62	11	10.8	10.8	0
ユキホマレ	9.23	9.20	3	75	63	12	10.6	10.8	0.2

品 種 名	分 枝 数(本/株)			着 莢 数(個/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	8.4	7.0	1.4	73	74	1
トヨコマチ	8.4	6.7	1.7	80	71	9
ユキホマレ	6.2	6.2	0	79	79	0

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	平 年 比 (%)
トヨムスメ	487	442	45	110
トヨコマチ	430	417	13	103
ユキホマレ	439	435	4	101

品 種 名	百 粒 重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	38.0	40.0	2.0	0.8	1.8	1.0
トヨコマチ	37.2	37.8	0.6	0.7	1.6	0.9
ユキホマレ	39.2	38.2	1.0	0.7	2.7	2.0

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : やや良

事由：百粒重は平年よりやや重かった。そのため、子実重は、「エリモショウズ」で平年比 104 %、「しゅまり」で同 115 %と多収であった。屑豆率は両品種とも平年よりやや低い。

したがって、目下の作況は やや良 である。

表6 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
エリモショウズ	381	366	15	104
しゅまり	381	330	51	115

品 種 名	百 粒 重 (g)			屑 粒 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	13.5	12.8	0.7	0.6	1.3	0.7
しゅまり	13.3	12.4	0.9	0.9	1.7	0.8

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。